

歴史と浪漫 そして 未来への挑戦

～「東方水上シルクロード 20年の歴史」～

「東方水上シルクロード航路」とは

1992年5月、日本の総面積の1.2倍を有する中国最北端の黒龍江省を流れる「松花江」～「黒龍江」～ロシアの「アムール川」そして間宮海峡を通過して日本海に入り、山形県酒田港に至る全長約2,800kmの「黄金水路」、「東方水上シルクロード航路」が開設されました。中国語では「江海聯運」（河川と海上一貫輸送航路）と命名されています。

この新航路開設は現在、株式会社平田牧場の会長であり、東方水上シルクロード貿易促進協議会の新田嘉一会長と、当時の黒龍江省人民政府の杜顕忠常務副省長の対岸交流拡大にかける情熱と指導力によって開通されました。新田嘉一会長は自社の原材料としての「羊腸」「豚腸」を1960年代より中国から輸入し、1987年以降は黒龍江省牧畜局の畜産関係の研修生の受入などを開始していました。1990年に新田会長は杜顕忠副省長の要請を受けて、黒龍江省の肥沃な土地のもとでの子牛育成と黒龍江省の畜産産業振興のために黒龍江省を訪問しました。黒龍江省側は農場視察のために、外国の民間人として初めて軍用ヘリコプターを特別手配して頂き、黒龍江省東部の「七台河市」の50万haもある農場視察を行いました。軍用ヘリコプターの機上からは大河「松花江」が見え、杜顕忠副省長は松花江～黒龍江～ロシア・アムール川を航行すると、直接中国国籍の船舶が日本海に出て貨物輸送することが可能になるとの話がありました。



00.9.14 杜顕忠副省長

当時の日本では子牛の農家買入価格が高騰し、飼育した後の成肉牛価格差が少なく、廃業する養肉牛家が増える傾向にあり

当時の日本では子牛の農家買入価格が高騰し、飼育した後の成肉牛価格差が少なく、廃業する養肉牛家が増える傾向にあり

ました。新田嘉一会長は農家の困難を自分のことと捉え、その難局を乗り越えるために安価で良質な肉牛子牛を黒龍江省で育成し、日本に輸入することを考えていましたが、当時の日本の法律では活きた牛を酒田港に輸入することは検疫上叶いませんでした。しかし、家畜飼育農家が必要とする配合飼料の原料である飼料用とうもろこしならば大量に輸入することが可能だと考え、この東方水上シルクロード航路を利用して、良質な黒龍江省産飼料用とうもろこしの輸入が実現するに至りました。



93.5.10 黒龍江省政府招待宴会
王宗璋副省長(左)、新田会長(中央)、小手川県総務部長(右)

新田嘉一会長の七台河の農場視察から1年半後の1992年1月には、中国交通部とロシア交通部との間で、ロシア・アムール川の中露国籍の船舶航行可能の合意調印がなされ、この黄金水路の開設される条件が整いました。

1992年5月には、新田嘉一会長を団長とする「第一次山形県環日本海経済交流使節団」が哈爾濱を訪問し、黒龍江省人民政府7階の会議室での合同調印式において「東方水上シルクロード航路開設」「黒龍江省産飼料用とうもろこし6,000ト、輸入契約」「東方水上シルクロード航路専用船チャーター契約」の契約が締結されました。調印後の新田嘉一会長は自社の飼料用とうもろこしの安定輸入よりも先に、酒田港の利活用拡大を想い「酒田の皆さんがこの航路開設を喜んでくれるかな」と心配されておりました。

1992年8月3日には「酒田港開港500年」の記念式典が行われ、黒龍江省から飼料用とうもろこしを満載した中国武漢航運局からチャーターした河海両用船「衢江号」が式典に1日遅れで8月4日に酒田港に入港しました。間宮海峡での強風の影響を受けて航行不能になったのが遅れた原因でした。式典出席のため黒龍江省から来訪されていた杜顕忠先生や陳雪楽省航運管理局副局長らは、はやる気持ちを抑えて待っていました。中国にとってこの黄金水路の開通は、1858年に中露間で締結された不平等条約の「璦琿条約」が解消され、ロシア・アムール川のロシア領河川の中国籍船舶が航行可能となり、黒龍江省の貨物を大連経由ではなく直接船舶で外海に出られる画期的、且つ、歴史的な航路開通となりました。

黒龍江省政府は哈爾濱市造船所で1992年5月から建造を開始し、翌1993年10月に進水し、11月7日に酒田港に到着した2,000ト級の河海両用船「木蘭号」と、翌年1993年には3,000ト級河海専用船「黒河号」「同濱号」を相次いで建造・進水させ、この航路での輸送拡大のため最大限の貢献をされてきました。

東方水上シルクロード航路が開通した1992年の12月7日には国内外の期待と要請を受け、酒田港の利活用と山形県をはじめ環日本海地域の経済貿易の振興拡大を目指し、北東アジア地域間の一層の経済交流を推進するために「東方水上シルクロード貿易促進協議会」が官民の支援と協力と、中国黒龍江省政府の支持と支援の下で設立されてから20年が経過致しました。

東方水上シルクロード航路の変遷



03.8.26 撫遠港での黒龍江（アムール川）の夕陽

東方水上シルクロード航路が開通した1992年から2002年までの期間は、飼料用とうもろこしの黒龍江省側生産基地も黒龍江の北部でロシア国境地域の羅北地区の綏濱農場と江濱農場を指定生産基地としていたために、東方水上シルクロード航路が毎年活用されてきました。この最初の10年間の苦悩はとうもろこしの輸入量の増加に伴い、冬期間の輸送をどのように解決するかでした。残念なことに、この航路は10月15日以降、翌年の5月末までの期間、松花江と黒龍江の黒龍江省

側河川、中露国境都市ハバロフスクと河口港のマゴ港（中国名：廟街）のロシア・アムール川が凍結して船舶航行が不可能になっていました。また、アムール川の浚渫工事が行われなかったため年々河川水深が浅くなり、2,000トンの本船がとうもろこしを満載した場合、航行できない状態に陥ってきました。但し、この航路の最大の特徴は「究極のIP（identity Preservation）物流航路」にあります。とうもろこしの積替えは黒龍江の河川のご真ん中で、舢舨船から本船に積み替えるために、他の異物やとうもろこしとは一切混載しない究極の分別物流が実施される航路として各方面より高い評価を受けていました。

10年ほど前から、中国とロシア間の貿易拡大に伴い、ロシア沿岸州のウラジオストック港、ナホトカ港、ポストチヌイ港を活用し、大陸からの鉄道で黒龍江省の綏芬河を利用した「陸海聯運航路」（陸路と海上の一貫輸送航路）の活用も検討しましたが、中露間の鉄道積替えの問題やロシア側港湾のサイロ保管などの問題もあり、残念ながら今もなお、本格活用はなされていません。但し、黒龍江省側との間で、この「陸海聯運航路」を「第二東方水上シルクロード航路」と位置づけ、将来の航路として期待しているところです。

その後、とうもろこしを生産基地の変更や冬期間の輸入需要拡大、そして、酒田の飼料工場の閉鎖などの原因により、生産地である黒龍江省鶏東地区の鶏東駅から遼寧省錦州港まで専用貨車でとうもろこしを鉄道輸送し、錦州港から渤海湾と日本海を経て酒田に至る航路が活用されてきました。この航路は「鉄海聯運航路」（鉄道と海上一貫輸送航路）と呼ばれ、冬期間の飼料用とうもろこしの安定供給に大きく貢献しております。

黒龍江省産とうもろこしの輸入

この20年間、黒龍江省産とうもろこしの輸入にも大きな変化が出ています。量的には、1995年と1996年の2年間、そして、2010年から2012年の3年間、合計5年間は中国内の飼料用とうもろこ

しの需要拡大による中国政府の政策変更に基づき、飼料用とうもろこしが輸入できない時期がありました。しかし、実質15年の間に43回の総航海が行われて、合計約82,000トンの輸入実績を上げることが出来ました。

輸送ルートについては、前述の通り、東方水上シルクロード航路利用から、後半は錦州港航路利用と変化が出ています。

また、品質についても、「安心」「安全」な飼料用とうもろこしを輸入するため

に、2006年以降は黒龍江省鶏東地区8510国营農場生産地との「国際産直」の協議を行い、今では普通に行われている「非遺伝子組み換え種子（NON-GMO）」の確認検査と残留農薬検査、IP（identity Preservation）分別物流の全ての工程での検査検証を実施し、中国で最初に国際産直方式を行ってきました。昨年からは中国中央の発展改革委員会もこれを認知しています。因って、究極の「安心」「安全」なとうもろこしの輸入が実施されていますが、残念ながら「安定」供給については中国の高度成長に伴い、毎年安定したとうもろこしの輸入が出来ないのが現状の悩みであります。



07.10.8 鶏東県境の生態・IP物流生産基地看板

中国哈爾濱經濟貿易商談会への出展

中国黒龍江省哈爾濱市で開催されている中国哈爾濱国際經濟貿易商談会は2012年で第23回目となりました。山形県は1994年と1995年の哈爾濱商談会の視察調査を経て、1996年6月15日に開催された第7回哈爾濱經濟貿易商談会から2012年の開催出展まで（2003年はSARSのために、ネット商談会に変更）毎年連続出展して参りました。このための事務は山形県の委託事業として東方水上シルクロード貿易促進協議会が事務局となっています。



06.6.15 哈爾濱商談会新会場正面ゲート

合計17回の哈爾濱商談会では山形県から延べ386の出展企業団体、321の出展ブース数、延べ1,081名の出展参加人数、10,541の商談件数、25億9188万円の成約金額の実績を積み上げてきました。また、17年の間に商談会会場も、最初は黒龍江省国際博覧センターでしたが、その後哈爾濱水上基地、2004年からは哈爾濱国際会議展覽体育センターと変遷してきました。出展会場規模も、黒龍江省国際博覧セ

ンターでは800ブース、5,000㎡の敷地面積で開催されていましたが、2012年には3,000ブース、76,000㎡に規模が拡大しております。勿論、国内外からの出展参展者数も増加の一途を辿っています。

山形県の出展団に対し、主催者の黒龍江省哈爾濱国際経済貿易商談会組織委員会からは黒龍江省が海外の友好関係締結して

いる地域の中で山形県は出展数、出展参加者数、出展の質など全てにおいて先頭を走っているという高い評価を受けております。2001年以降、毎年「優秀ディスプレイ賞」や「先進取引団賞」などの表彰を受けています。

特筆すべきは、2009年に東方水上シルクロード貿易促進協議会新田嘉一会長が組織委員会から世界各国から9名だけ表彰された「功勳賞」を受賞したことです。これは正に、山形県から委託を受けた東方水上シルクロード貿易促進協議会が哈爾濱商談会に大きく貢献寄与した証でありました。受賞式において組織委員会から特別な配慮を頂き、新田会長の功勳賞のプレゼンターを新田会長と特別な関係が有った故杜顕忠先生のご子息である当時の哈爾濱市委の杜宇新書記（現在は黒龍江省政治協商会議常務委員会主席）が務めてくださいました。新田会長と故杜顕忠先生の深い関係を知っている人にとっては大変感動的で感慨無量の表彰式でありました。

また、山形県出展団は哈爾濱商談会の開催中、それまで誰もが実施したことのないことを行ってきました。それは、山形産コメの試食販売会、山形産果物類の試食会、観光宣伝セミナー、ハイテク産業技術商談会、環境保護関連商品商談会、出展企業との個別商談会などを開催したことでもあります。更に出展品（ホバークラフト船）の松花江での現地実演なども実施して、多くの商談が行われ、これも高い評価を受けてきました。この様な催事を全面的にご支援いただいた哈爾濱商談会大会弁公室の他、省外事弁公室や省商務庁のご尽力に対し、衷心より感謝申し上げます。これからも、哈爾濱商談会を山形県産品の中国進出の突破口として今後も継続していきたいと思っています。



09.6.15 功勳賞受賞式

人的ネットワークの構築

1970年代後半から、私たちは黒龍江省とのお付き合いを開始してきました。黒龍江省人民政府の歴代8名の省長、即ち、陳雷省長、候捷省長、邵奇恵省長、田鳳山省長、宋法棠省長、張左己省長、栗戰書省長、そして王憲魁省長と面談の機会も得てきました。

特に、宋法棠先生との関係は深く、省長以後の黒龍江省委書記時代には、酒田にもご訪問頂き、第11次全人大では教育科学文化衛生委員会の副主任委員の要職にありますが、哈爾濱訪問の際には「老朋友懇談会」などを通じて、今でもお会いする機会を頂いています。そして、栗戰書先生

は2010年には黒龍江省省長から貴州省委書記に転任し、2012年9月には中国共産党中央弁公庁主任に就任されています。早い時期に北京で面談できることを楽しみに連絡を取り合っているところであります。

また、故杜顕忠副省長のほかに、王宗璋副省長、張成義副省長、馬淑潔副省長、王東華副省長、劉海生副省長、申立国副省長、王利民副省長、孫克副省長、程幼東副省長、于莎燕副省長など多くの副省

長とのネットワーク構築も出来ました。当然、黒龍江省側の窓口である黒龍江省江陸海聯運促進協調委員会の初代の賈福林主任、二代目の王悦華主任、三代目の姜国文主任、四代目の楊愛武主任、五代目予定者の康翰卿主任は、全員が酒田にも来訪したことがあり、深い人的繋がりが構築されております。

東方水上シルクロード航路関連では元航運管理局常務副局長の陳雪楽先生、とうもろこし貿易関連では輸出窓口の天正糧油会社の王晓天董事長と、鄧楽群総経理助理は1992年当時からの長いお付き合いであります。合弁企業設立や対外貿易関連では、当時の元省外資局の王津永局長と齊々哈爾富佳機械修造有限公司の陳双林董事長は今でもお付き合いがあります。



00.9.13 孫志堅 元省外事弁副主任

また、哈爾濱市では、酒田商工会議所100周年記念事業に出席して頂いた哈爾濱市委元書記で元市長の石忠信先生、そして、山形産米の輸入に全面協力を頂いた哈爾濱市不動産協会の会長であり哈爾濱市最大の不動産ディベロッパー企業である哈爾濱嘉天房地產開發有限公司の桑洪董事長は新田嘉一会長とは特に懇意にして頂いている最重要人物であります。また、桑洪董事長の紹介により哈爾濱市総商会を通じ

て、哈爾濱市の経済部門とも経済交流会などを開催し交流拡大に努めています。桑洪董事長を通じて、哈爾濱市の多くのゴルフ愛好家とも相互友好交流を続けています。これまで、東方水上シルクロード貿易促進協議会が61回の訪中団を組織し、哈爾濱に訪問していますが元黒龍江省海外旅遊総会社の楊偉副総経理も忘れることはできません。楊偉先生は、亜細亜大学研修留学期間中、新田会長の東京宅に寄宿していた経緯もありましたが、残念ながら、その後ご逝去されました。また、旅行関係では、哈爾濱国際旅行社の呂玉秀総経理から今も哈爾



04.6.15 宋法榮省委書記表敬訪問

濱訪問した際には、何時もお世話になっています。

思い起こせば、黒龍江省とのお付き合いは過去を辿れば、元黒龍江省外事弁公室の孫志堅副主任がほとんど紹介してくれたと言っても過言ではありません。ご健在とのことで、御長寿をお祈りしています。

酒田においては、東方水上シルクロード貿易促進協議会の設立当時から全面的にご指導ご支援いただいた、当協議会の副会長でもあった故村井秀三元第一物産会長、故児玉英男元エコー会長、そして、故伊藤耕次郎元県議会議長は東方水上シルクロード協議会の発展に多大なる貢献をなされた皆様でありました。ここに、改めてご冥福をお祈り申し上げます。

日中青少年交流の拡大

1995年に、酒田青年会議所が主体となり黒龍江省佳木斯市、ロシアハバロフスク市、そして山形県酒田市の青少年交流事業が開始され、数年間三都市間相互訪問交流が続けられました。その後、2000年には、温海町と黒龍江省尚志市と友好関係の締結が調印され、温海中学校と尚志市第五中学校との生徒間交流も続けられました。2004年からは、山形県立産業短期大学庄内校の学生が中国研修旅行を実施して、黒龍江省商学院との交流を続けてきました。2004年9月には、新田嘉一会長を顧問とした「山形県教育視察団」が哈爾濱市を訪問し、2006年から東北公益文科大学の学生が毎年8月に、約三週間の中国語語学研修学習を続けています。

2010年5月には、哈爾濱市の東北林業大学と東北公益文科大学が友好大学交流の締結に調印し、



11.9.17 東北公益文科大学
中国研修旅行北京視察



10.10.20 東北公益文科大学の開校10周年
東北林業大学 楊学長から記念旗贈呈式

2010年10月の東北公益文科大学開校10周年記念式典には東北林業大学の楊傳平校長一行が来校し、2012年7月の東北林業大学開校60周年記念式典には東北公益文科大学の町田学長一行が哈爾濱訪問し相互交流を深めてきています。2011年から、東北公益文科大学は東北林業大学へ夏期語学研修生と、短期の中国研修旅行を実施して学生の中国との交流の機会を増やし将来の人材育成に努めています。その成果として、2012年8月に東北林業大学にて短期語

学研修を受講した公益大学の女子学生が2013年2月に北京の清華大学に留学することが決まりました。これらの日中青少年交流は将来の日中間の友好交流の基礎となるという理解の下、東方水上シルクロード貿易促進協議会は全面的に支援と協力を続けて参りました。

この様にして、東方水上シルクロード貿易促進協議会は航路拡大と経済貿易拡大だけの歴史と浪漫への挑戦に留まらず、青少年交流にも大いに力を入れて未来への挑戦も続けていきます。

地域振興と地域連携の拡大

東方水上シルクロード貿易促進協議会は、環日本海時代、北東アジア経済圏の発展を見据えて設立当初より多岐にわたる講演、シンポジウム、フォーラム開催等の活動を続けて参りました。1993年から、宮城県との連携を図り「東北横断自動車道酒田線沿線都市会議」を開催してきました。この趣旨は、東方水上シルクロード航路と横断道酒田線を活用した環日本海経済圏と環太平洋経済圏を連携する新たな「ランドブリッジ（大陸間架け橋）構想」の実現でありました。

その後も、1995年5月には韓国釜山港と酒田港との定期コンテナ船の就航や2000年の国際ターミナル施設、2003年の貿易上屋供用開始、そして、C F S（Container Freight Station）整備、東北横断道酒田線酒田みなと I C（Inter Change）整備などがありました。

1998年以降は、庄内空港と哈爾濱国際空港との国際定期便就航を目指し、山形県と協調しながら定期チャーター便を60数便運航しましたが、定期便就航は残念ながら実現出来ませんでした。



10.7.1 日沿道未来フォーラム

2010年には、酒田港が重点港湾に選定され、2011年12月には日本海拠点港にも選定されました。この選定の実現のための活動や酒田港リサイクルポート港の振興のための国際フォーラム、日沿道全線開通のための「日本海三県地域連携フォーラム」を連続開催するなど地域振興と地域連携のために東方水上シルクロード貿易促進協議会は大いに貢献してきたと自負しております。今後も国、県、そして酒田市、鶴岡市その他機関からのご支援ご協力を頂き、引き続き努力して参る所存です。これからも宜しくお願い申し上げます。